

# シリーズ●まちのいいとこ⑧ 池袋富士塚

富士山が世界文化遺産に登録されました。登録の内容は「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」となっています。富士山信仰の貴重な遺構が氷川神社にあります。宮司の山内学さんにお話を伺いました。

この富士塚は、明治45年に造られたもので昨年100周年を迎えました。富士塚としては後期に作られたものですが、全山が溶岩で覆われ、稲妻型の登山道、奥宮、小御嶽神社、烏帽子岩、お中道など富士塚の特徴をよく現している遺構となっています。この溶岩は富士山のものを船で運び、港から陸路で運搬したそうです。

年輩の方に伺うと山頂からは本物の富士山がよく見えた場所だったそうです。ここでお参りをしてから徒歩で富士山に向かうというのが正式の参拝コース。誰でもが行けるわけではないので、富士講でお金を出し合い、代表者が富士山に登ったそうです。地域の富士講は解散してしまいましたが、信仰は残っており、7月1日の山開きにはたくさんの方がおいでになります。

最近では遠方からおいでになる方も増え、遠く関西からの方もいたそうです。はやりのパワースポットとしても注目されているとか。



この100年の間には、関東大震災と空襲を経験し、2年前には東日本大震災にも襲われました。そのたびに石が崩れるなどの被害を受けてきました。昔は子供の遊び場として人気の場所でしたが、今は安全のため、山開きの時にしか登ることができません。山開きに集う人々の姿を見ると、昔の信仰の様子を垣間見ることができるような気がします。

この富士塚は、四季折々や朝夕の時間ごとに思いがけず美しい姿を見せることがあるそうです。まわりの建物が高くなって富士山は見えなくなりましたが、今ではスカイツリーが見えるそうです。時代の移り変わりを見つめてきた富士塚です。



7月1日の山開き。

氷川神社宮司の山内さんから貴重な情報をいただきました。このまちづくりニュース51号に池袋本町の古地図を掲載し、池二小北側にあった稲荷神社が今はどうなっているか不明でしたが、明治42年に氷川神社に合祀されていたそうです。神社の歴史は連綿と続いているのだと感心させられます。

## 防災すごろく 池袋本町ふれあいまつり

毎年恒例の池袋本町ふれあいまつりに、今年も新しいまちづくりの会が参加します。

昨年も好評だった防災すごろくをさらに面白くして、楽しみながら防災を学ぶことが出来るようにしたいと思います。また、都市計画道路をはじめとして地域で起こっているまちづくりの課題についてのご意見を伺います。

お楽しみ参加賞も用意しています。お誘い合わせの上、おいでください。

■月日：平成25年10月13日(日)～14日(祝)

■場所：池袋本町公園

## 池袋本町

# まちづくりニュース

Ikebukuro Honcho  
Machizukuri News  
**No.55**

2013年9月発行

発行：池袋本町新しいまちづくりの会  
http://池袋本町.net  
豊島区都市整備部地域まちづくり課  
問い合わせ先：  
tel 03-3981-2612  
fax 03-3981-4204  
編集協力：防災アンド都市づくり計画室

## 500人のテープカット

電車の見える公園開園式



池袋本町電車の見える公園は、桜の咲き始めた3月20日に無事開園式を迎えました。開園式は豊島区制80周年記念イベントとして「いのちの森植樹祭」と一緒に行なわれました。和太鼓グループ破魔による和太鼓演奏、高野区長のあいさつの後、新しいまちづくりの会の西野会長が住民を代表してあいさつを行ないました。その後、宮脇昭横浜国立大学名誉教授の植樹指導のあと、参加者全員によるテープカットが行なわれました。当日、会場にいらしたのは約500人。大部分の方が一列に並んでいっせいにテープにはさみを入れました。あまりに長い列のため、一部をご紹介します。

会場では、池袋本町四丁目町会による豚汁のお



500人のテープカット

## つれづれに一言

池袋本町四丁目 青山日出男

東日本大震災の翌日、2011年3月12日未明3時59分、震度6強の大地震が発生しました。日本有数の豪雪地帯である長野県水内郡栄村です。大きな余震が2回続きました。被害は、死亡者3名(避難生活後)、家屋の全壊33棟、大規模半壊143棟。

その2ヶ月後に被災の状況を目にし、2年後に再訪した時、優先的にやらなければならないこと、ゆつくりじっくり腰を据えて取り組まなければならないことがあることに気づかされました。

木造震災復興住宅が、まるで以前からあったがごとく自然環境に融和していると感じたのは、2階建て、2戸で1棟となっている住宅です。屋根は、雪が自然落下しても雪掘の心配がない切妻となつています。とは言え、惜しむらくは、村の人たちの仕事力が活かされなかつたことです。

村の人たちの生活にとって重要な役割を果たしていた中条橋は、震災後除雪ができないために雪の重みで折れてしまいました。11月の完成に向けて急ピッチで工事が進んでいました。こうした栄村の震災復興等を目にし、そこに住む人々と行政との関係に思いをはせました。

栄村の新しい挑戦と自立に向かつて「すく〜」(辛抱強く)と声をかけてきました。



きりとり

郵便はがき

1 7 0 - 8 7 9 0

東京 東京都豊島区東池袋2-60-3

豊島区都市整備部地域まちづくり課

西部まちづくりグループ

(池袋本町担当) 宛

豊島局 承認 7214

料金受取人払郵便

差出有効期間 平成26年2月20日まで (切手不要)